

広報

昭和44年5月14日 第3種郵便物認可(1部10円)



たかのす

◆編集と発行 鷹巣町役場総務課秘書係
☎(2)一1111
◆発行日 毎月1日・15日
◆印刷所 榛秋北新聞社
広報紙は、行政協力員を通じて全世帯に
配布しています。届かなかったり、配布
が遅いときは、総務課秘書係へご連絡く
ださい。

No. 250・11・1



広報二五〇号記念特集

企業発展に退職金共済制度を

掛金は全額免税

退職金には国庫補助金

退職金共済制度は、昭和三十四年に法律によって定められた国の制度で、「中小企業退職金共済法」にもとづいてつ

中小企業退職金共済事業団と退職金共済契約を結び、毎月従業員一人一人に一定の掛金を納めます。従業員が退職したときは退職金を事業団が直接従業員に支払います。

有利な点は、事業団の事務員、人件費一切は国庫補助金でまかなわれています。したがって掛金がすべて退職金にあてられ、その上に退職金に国庫補助金がつきますので、毎月わずかな掛金で多額な退職金が支給されるようになって

加入できる企業は、常用従業員が一人以上三百人（商業、サービス業は五十人）以下の企業で、資本金に関係ありません。掛金は事業主が全額負担します（掛金は月額四百円から四千円まで十六種類あり、選

択自由）が、全額免税の特典があるために事業主の負担は実質二分の程度になります。この制度は、中小企業の振興と求人、定着ならびに従業員の福祉の増進をはかることを目的として創設されたものですので、多くの企業が加入することをおすすめします。

この制度についてのくわしいことは、次にお問い合せください。秋田市山王一丁目 県庁内 労政課または県の各労政相談所

綴子下町・貯蓄実践地区に指定

町の貯蓄テデル地区に指定されたいた綴子下町貯蓄実践会（会長小笠原タマ）会員百六十二名）が、その実績が認

ただいま工事中

- 〈坊山公民館建築工事〉
▽工場所所 小森字若ノ目地内
▽請負額 百五十万円
▽請負業者 鷹巣工務店 村上啓一
▽期限 十一月三十日

〈堂ヶ谷橋橋梁架替第一工事〉

- ▽工場所所 脇神字堂ヶ谷地内
▽請負額 二百七十五万円
▽請負業者 秋北産業 金沢吉己
▽期限 十一月三十日

〈堂ヶ谷橋橋梁架替第二工事〉

- ▽工場所所 脇神字堂ヶ谷地内
▽請負額 八百九十七万円
▽請負業者 石川建設 石川徳治
▽期限 十二月三十一日

〈町道松原岩谷線道路災害復旧工事〉

- ▽工場所所 綴子字岩谷地内
▽請負額 二百二十七万円
▽請負業者 堀井組 堀井三治郎
▽期限 十二月三十一日

広報たかのす

二百五十号にあたって

町長 出川 礼一



新町が発足した昭和三十年五月創刊した広報「たかのす」がこの十一月一日で

いわれるほど、私たちの周囲にはあらゆる機関から多くの情報が流されその何れ

二百五十号を迎えることになりました。

広報はそのまま町の歩みであり、町の歴史の記録でもあると思います。

今やまさに情報化時代といわれるほど、私たちの周囲にはあらゆる機関から多くの情報が流されその何れ

が正しいか判断に迷うこともしばしばあります。

情報正しく受けとめるためには、常に世の状況を判断するための不断の努力が必要となります。

町の広報の使命は、一般情報といささか趣きを異にし、町民の生活に直接身近かなこと即ち、町民から託された行政の運営状態を卒直にお知らせし、理解と協力を求めるための手段として、いまや各市町村とも広報活動を行政の一端として大

められ、このほど県のモデル貯蓄実践地区に指定されました。モデル地区指定は、県内十地区となっており今回の指定は、これまで同地区の人達が年代別やグループごとに名称をつけ生活設計にあわせた貯蓄の実践が認められたものです。指定期間は五十年七月までの三カ年。期間中は町から一万円、県貯蓄推進協議会から二万円、県から事業に対する補助二万円が交付されることになっていきます。

きく取りあげています。

町の行政も、益々多岐を極め、各部門毎に情報を流し、各部門毎に情報が増し、町民の生活に直接身近かなこと即ち、町民から託された行政の運営状態を卒直にお知らせし、理解と協力を求めるための手段として、いまや各市町村とも広報活動を行政の一端として大

きく取りあげています。

町の行政も、益々多岐を極め、各部門毎に情報を流し、各部門毎に情報が増し、町民の生活に直接身近かなこと即ち、町民から託された行政の運営状態を卒直にお知らせし、理解と協力を求めるための手段として、いまや各市町村とも広報活動を行政の一端として大

町長 日誌

- 10月1日 10月15日
2日 町議会本会議
3日 鷹巣阿仁観光を語る

議会 日誌

- 10月1日 10月15日
4日 町代表広域議員と広域関係事業について懇談
5日 竜ヶ森観光開発促進協議会
6日 町内道路状況視察
7日 県町村会教育厚生委員会 秋田市
8日 当町出身元秋田県弁護士会会長故米沢多助氏の葬儀参列 秋田市
9日 建設省地方道路課長 補佐来町・陳情
10日 町村長自治研修 秋田市
11日 北鹿二市二郡市町村長・議長懇談会（東北縦貫自動車道について） 大館市
12日 15日 県町村会教育厚生委員研修視察 香川県ほか
2日 町議会本会議
3日 郡議長会と知事との懇談会 議長出席
8日 10日 労災法制定促進全国協議会総会（大宮市） 議長出席
10日 北鹿二市二郡市町村長議長懇談会（大館市） 議長出席
15日 16日 県北三郡町村議会連絡協議会（大滝） 議長出席

国保利用状態調べ

三人にひとりとは病気

早期受診 早期治療 に徹しよう

町の保健婦が調べた。さる五月の国保受診状況によると、国保加入者のうち、三人に一人が病気をし国保を利用していることがわかりました。

五月現在の国保加入状況は 用いています。総人口の五十三%強に当たる 年令別では、四十歳から五十一万三千五百八十九人。うち 十九歳までが最も多く男四百病気やケガで男千九百九十五 十七人、女八百八十九人の計人、女二千七百四十四人の計 千三百六人で全体の三分の一四千七百三十九人が国保を利 強を占めています。次いで二

十歳から三十九歳までが八百九十三人、六十歳から六十九歳まで七百四人の順で、件数では男は女の約半数となっております。ところが、一件当たりの医療費は男九千八百八十

六円、女四千九百八十三円と男が女のおよそ二倍となっております。一件当たり医療費の年令別内訳では、二十歳から三十九歳まで男六千三百三十四円、女三千四百二十六円。四十歳から五十九歳まで男七千二百三十九円、女四千八百四十六円。六十歳から六十四歳まで男九千四百七十五円、女五千八百三十一円。六十五歳から六十九歳まで男十四万九千四百六十円、女八千九百一十一円となっており、これについて保健婦は「年令が高くなるにつれて一件平均の医療費が高くなっているのは、一家の柱

ある世帯主が仕事などを理由に、重症になつてからあわてて治療を受けるため」といっており、自分のため、家族のために早期受診、早期治療に徹するよう呼びかけております。

疾病分類では、別表(一)のようにかぜや気管支炎などの呼吸器が一番多く、成人病の高血圧、心臓病などの循環器、胃かいような消化器、神経系と続いています。

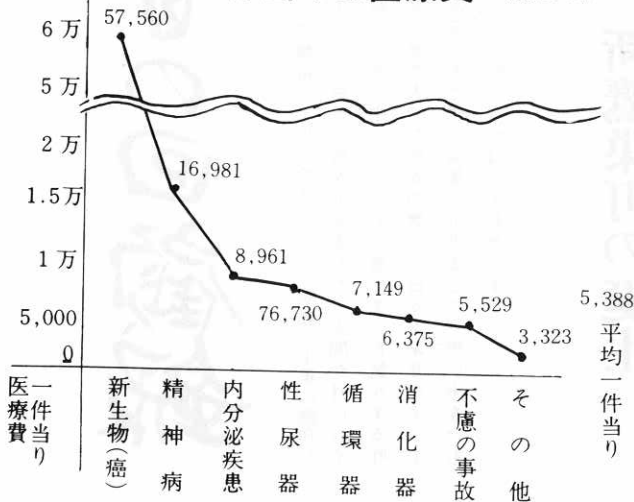
日から初めた救急車の出動件数は五十九件で七十四人の傷病者が搬送されました。救急業務は消防業務の一環として行なっているものですが、町民の間で、まだ救急業務についてわからない方もあるようですので、救急車の利についてのでてみましょう。

疾病分類(47・5) (別表1)



合計件数四、七三九

1件当りの医療費 (別表2)



平均一件当り 5,388

救急車の正しい利用方法

正しい利用方法

最近の社会経済の発展とともに、社会生活の広域化および高速化は著しいテンポで進んでいます。それにとともに、交通事故その他の災害等が多く発生しており、四月十

健康保険の分析ですが、この結果からも早期受診、早期治療はどんな病気にもあてはまる原則です。三十歳を過ぎたら、年一回以上の検診を受け、健康管理に気をつけましょう。

以上は、さる五月分の国民健康保険の分析ですが、この結果からも早期受診、早期治療はどんな病気にもあてはまる原則です。

- (一) 局番なしの一一九番に、所在、目標、事故の内容、人数を簡単に、はっきりと落ちつけて知らせる。
- (二) 大きな施設では、救急車の入口や車寄せの場所も付け加える。
- (三) 目標のないところや夜間には、近くに案内を出しておく。
- (四) 家庭内での事故(薬物中毒、やけど、異常分娩、ガス中毒、屋内作業でのケガ、急病などで、ほかに搬送の手段がなく、急いで医療機関へ搬送しなければならないとき)。
- (五) 公衆の出入する場所での事故(興行場、学校、店、駅、競技場、道路上などで急病になつたり負傷したとき)。
- (六) 家庭内での事故(薬物中毒、やけど、異常分娩、ガス中毒、屋内作業でのケガ、急病などで、ほかに搬送の手段がなく、急いで医療機関へ搬送しなければならないとき)。
- (七) 公衆の出入する場所での事故(興行場、学校、店、駅、競技場、道路上などで急病になつたり負傷したとき)。
- (八) 家庭内での事故(薬物中毒、やけど、異常分娩、ガス中毒、屋内作業でのケガ、急病などで、ほかに搬送の手段がなく、急いで医療機関へ搬送しなければならないとき)。



懐しい あの日、この日の回顧録

広報紙「たかのす」が、昭和三十年に創刊してから二百五十号を迎えました。人間が月に行く時代、世の中のテンポも一層早まった気がする。今、過ぎ去った折々の懐しい日々をふりかえってみるのとも思い編集してみました。思い出をひもどく一助となればしあわせです。

新鷹巣町の誕生

昭和二十八年十一月一日は地方自治にとって記憶される日であった。町村合併促進法が施行され、この日を境に新しい市や町村が生まれ、古い町や村が消えて全国の地図は毎日ぬりかえられていったからだ。この法律の趣旨は衆知のように、合併によって町村の規模を適正化し、行政の運営を合理的かつ能率的にしようとするものであった。つまり、戦後の町村はいろんな面で事務量がぐんぐん増え、人や物件費が年々かさみ、小さな財源ではとうてい住民の福祉を向上するような事業がで

きなくなった。そこで合併を促進し地方自治の制度を十分に享受せようとするのが本法のねらいであった。新しい町村合併は明治のそれに匹敵する大事業である。明治二十二年いらいの境界に安住してきた住民にとってその垣根をはらうのはショッキンクな出来事、その動揺をとりのぞきせまいセクト主義にこだわらず、大同団結にいたる町村合併はやはり強力な県の行政指導を必要とした。

郡境にこう泥せず、①地勢、交通、通信、産業の一体性、②人情、風俗、慣習の類似性

この企画にあたって次のかたがたのご協力をいただきました。
〔敬称、順不同〕

長谷川 真一郎	栄町	神成 為治	本町
桜庭 元治	仲町	山野内 ミツエ	花園町
藤島 直助	横町	九島 与治郎	東鷹巣
三浦 哲男	松葉町	細田 みね	大町
小林 東一	仲町	村上 薫	南鷹巣
津谷 正明	旭町	巖脇 新一	東旭町
加賀 慶蔵	掛泥	笹森 民治	材木町
野宮 幸雄	西仲通	河田 治郎	三吉町
長岐 久蔵	七日市	豊村 政吉	新旭町
藤島 修三	栄太田	橋本 みや子	西仲通
笹原 一	南鷹巣	五十嵐 謙	東旭町

③都市計画並びに地域開発計画 ④学校、組合等の有無を勘案し、合併計画を樹立することにした。かくて、事務がすすみ、二十九年五月六日「秋田県合併計画案」を発表、合併ブームがせきをきったようにはじまった。公表された県合併案は本町の場合、田鷹巣町を中心に周辺の栄、坊沢、七座、沢口、七日市、綴子の六カ村を包含する範囲を新町の規模としていた。ところが、綴子と七日市の両村は合併への主体的条件が成熟せず、結局二カ村をのぞいた五カ町村をもって合併の議がすすめられ、三十年一月、各議会において合併を決議する段階にまで進展した。決議は鷹巣が一月三十日、沢口、栄両村は三十一日、坊沢は二月六日いずれも満場一致で原案可決した。また、七座村は小繋、麻生、下田平三部落を除いて合併。かくて、三十年三月三十日総理府告示をもって合併認可、四月一日より新鷹巣町が発足した。綴子、七日市の両村が編入合併したのは三十一年九月三十日。ここに名実ともに中央部七カ町村が合併、強力にスタートしたのである。



明治四十五年の仲町

当時の鷹巣銀座と呼ばれ、七日の市日もここで開かれ賑わった

鷹巣町のお祭り

鷹巣祭典は、七月十一日を定例とし、前日は神社境内を掃除し、幟をたて灯笼を吊して宵祭の準備をする。日が暮れると氏子達が集つて宵祭を行う。多くの者は神前夜籠りをした。

当日は仕事を休み、近郷

近在より集って来る親戚知人と共に祝意を表して一献をくみかわす。

老若男女は皆拝し、余興やサーカスを見物して終日楽しむ。祭式は神職の祭詞の外に神楽、大和舞など終戦前までは学校生徒、児童の参拜もあり賑々わったものである。

(鷹巣町郷土誌より)

明治時代のたかのす

長 岐 久 蔵

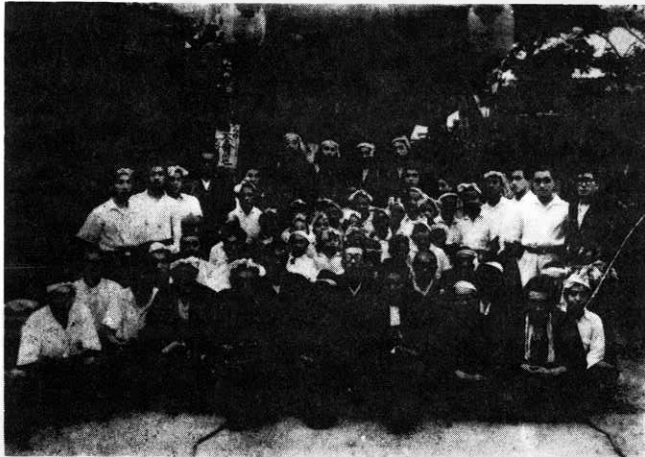
鷹巣町横町、仲町、大町（明治時代は新町）の明治時代の状況を思い出のまま記して見る。

私は旧七日市村出身で明治二十五年生れの今年数えの八十一歳になりますが少年時代明治終りまでの前掲の三町に閑したことを述べて見る。
当時最も繁栄した町は仲町でした。七日、七日の市日の出店は仲町で、角の家（成田

連太郎）より勝永旅館までは両側びっしりの出店、横町の寺の入口大門さんより仲町の角の家まで両側茶屋でびっしり、当時の農家は七日、七日の市日に米を売りに出市一俵二斗五升入れて（明治四十四年頃から四斗俵となる）なかなか米の相場が立たないので茶屋で馬肉カキで一俵やりながら、夕方まで待つて随分繁昌したものだ。なお大町は

新町と称して晩梅のお菓子屋から郡役所の前を通り鷹巣停車場へ行く道路であった。郡役所の隣は公会堂、向側は鷹巣警察署、田島旅館など堂々たるものであった。店などは点々として大きい店はなく住宅などもまばらであった。横町は金持屋敷でだんなの家と成儀さんの家はでんと構へ鷹巣郵便電信局も大門さんの隣り、だんなの向側で階は電報局、今でもそのままの家屋は残って懐かしい思い出であります。当時は今の鷹巣の名誉町長の成田喜八さんは郵便局長をして居られました。

昭和三十五年の大火で町は一変、今日の繁栄を来した。仲町でも明治時代は河田大納言貴族院議員始め、丸太呉服屋、成田市五郎商店など大繁昌し、役場も仲町にあり七月十日の宵祭十一日はお祭り、大きい山が出て近郷近在は鷹巣のお祭りとして総出で見物に来たものでした。（七日市）



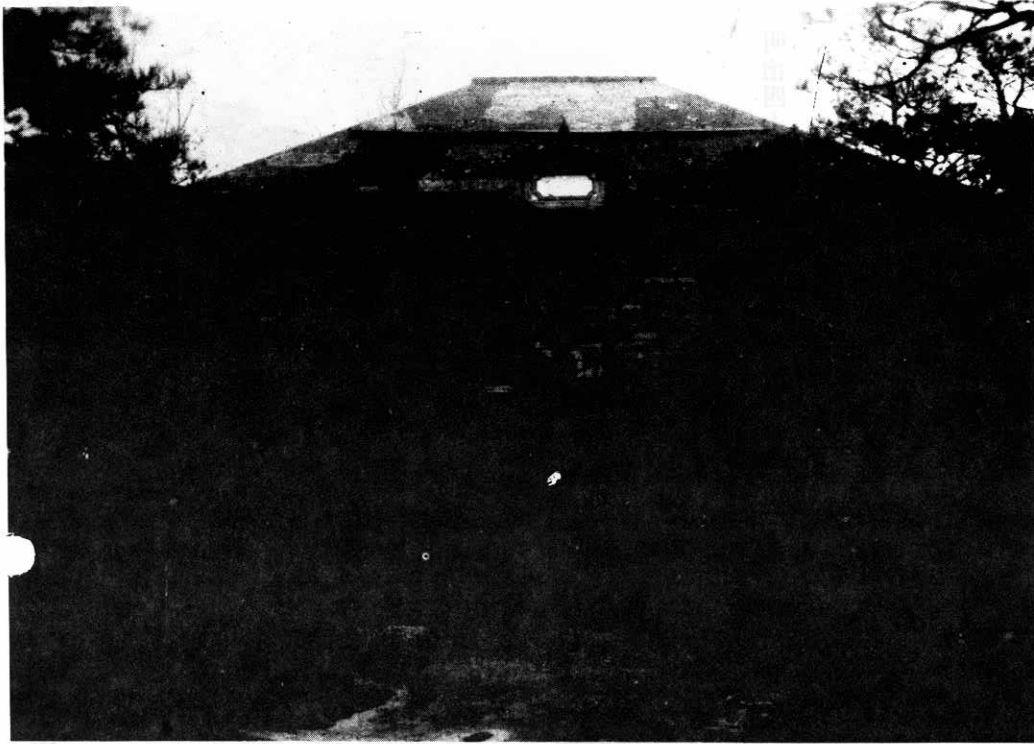
祭典の引き山

当番町内が毎年交替で町中をねり歩いた。

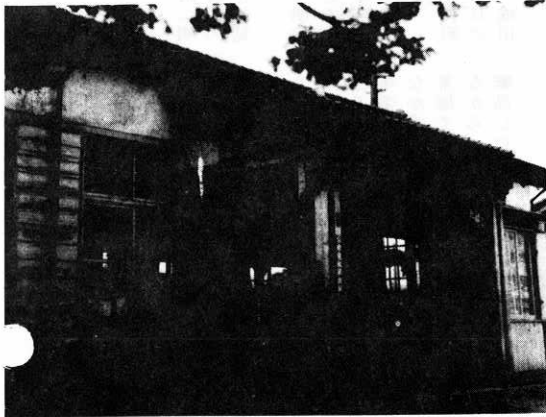


観桜会

観桜会は鷹巣神社の裏庭で開かれた。現在の鷹巣小グラウンド



北秋田郡公会堂
 旧総合庁舎跡（大町）にあり、大火によつて焼失した。警察署（下の写真）はその向かいにあった。



鷹巣 駅



鷹巣警察署

公会堂の思い出

藤 島 修 三

郡役所は、地方自治発足に当り、県と町村との中間団体として独立自治区とする郡制度（自明治二十三年 至大正十年）のあった時代、郡の各種会議、集会場として明治三十五年に建てられた、北秋田郡公会堂であつて昭和二十五年六月鷹巣町大火で焼失するまで北秋田地方事務所として使用されていた建物である。

郡制廃止によつて大正十五年鷹巣町にあつた郡役所も廃止により、郡に中間機関を設けたいことを原則としたが、県自体の事務処理上の必要から、地方土木行政のための土木事務所、県税の検査徴収事務のための財務事務所、県北の木炭検査事務所としての支所が鷹巣町に置かれた当時の写真であるので、昭和七八年頃のものである。

当時財務出張所の職員には、高橋米吉氏を所長として、小畑勇二郎氏（現知事）、前県教育次長高石善助氏（このたび鹿角市助役に選任された）現鷹巣町消防署長成田仁市氏等が勤務されていた。

この建物の右側には元郡役所（この当時は鷹巣病院になつていた）左側には北秋田郡各種団体事務所があり、道路を隔てた筋向には鷹巣警察署があつた。

この建物は非常に堅牢であつて、昭和十七年から北秋田地方事務所が設置され、又終戦間際に釜石港が米軍の盤砲射撃を受けた際、この附近の建物が全部振動を感じたのに二階建のこの公会堂はビクリともしなかつた。

（栄字太田）

思い出は遠く

笹原 一

かすりの着物に縞の袴、高足駄を鳴して威圧感にあふれる堂々たる校舎に一步を踏み入れたのがつい昨日のように思えるが、それがなんと遠く大正十五年の春だ。

すべての授業がラッパに始りラッパに終る、特にお昼のラッパは覚えも早く最高に楽しかった、登校下校は鬼よりこわい上級生に停止して拳手の敬礼、オハヨー、サヨナラに元気がなかったり、服装が少しでも乱れていればきびしい注意を受ける。

間もなく実習服が渡る、農業林業の実習は勿論、教練の演習服にもなる、六月に入れば夏の制服が着られる、霜降りの上下にラシヤのゲートル、豚皮の軍靴、これedyつと農林の生徒になれたと思つた。

の奥の吉ヶ沢演習林の刈払いだ、ポケットにパンや飴玉をしのばせているからなかなか楽しいものだった。

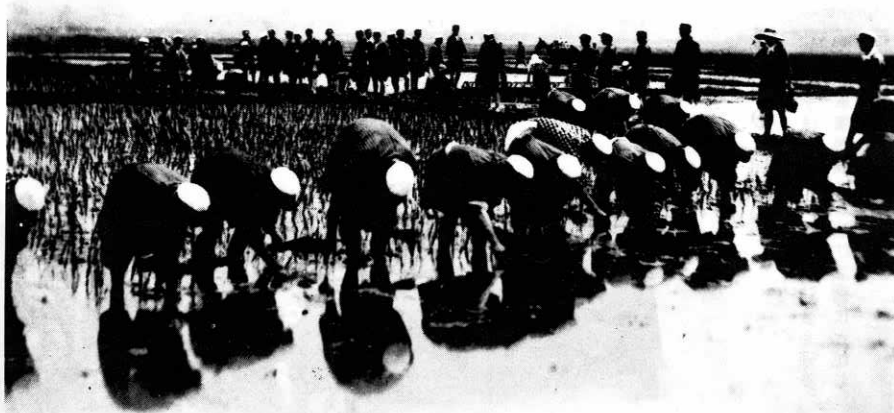
夏休み近くなると学期末試験がある、その時期は朝から便所が満員だ、一人一室で次の試験に出せうな所を棒暗記する唯一の場なのだ、夏休みが終ると、野球や庭球の対校試合が始まる、選手以外は全員応援団だ、団長ともなればあごひげを生やしホロボロの羽織袴に木刀、幹部は全員を招集して応援歌一時間、ケンカ一時間の練習をする、二学期の頃は先生のアゲナも殆んど覚える、アラ、チョリ、メロー、ガマ、タコ等々、

上田兵蔵校長と軍から派遣の野田大尉だけアゲナがない、この人の奥さんは美人ですばらしい、大尉が帰る頃になると必ず門まで出迎える、その時刻に行つて拝んで来い、と上級生の命令、私達は拝んだ、上級生はいった、「うーん、だんだん成長して来たぞ」と、

農林学校の田植え風景

県立農林学校生徒による田植

(大正十二年頃)



その頃になると、農業実習の田植えが始る。大男が苗運び小男は田植え、上級生は監督兼苗投げ、県外から来ている生徒は殆んど田植えを知らない、でもカッコーが悪いと、泥のついた苗束が背中に飛んで来る、林業の実習は小摩当

(南鷹巣)



△ 実科女学校寄宿舎

登記所を転用して使用された。

▷ 農林校舎

七日市より伊勢堂に移転した当時の校舎



婦人会の隊列行進

男子は戦争へ、婦人は銃後を守る
と軍事教練に、消防演習にと忙しい毎日を送った。



△ 縄の供出完遂を記念して(七座婦人会)

◁ 防空演習 (松葉町)

銃後の婦人活動

神成 為治

大陸事変が長びいて、遂には大東亜戦にまで、その規模も戦域も広がった。

この間に、若者たちは召集令状を手にして、続統として勇躍郷閭を出て立った。

駅頭にはタスキがけの、手に手に小旗を持った歓迎の婦人たちの黒山を築いた。先生に連れられた小学生も必ず出て見送った。

「天にかわりて不義をうつ、忠勇無双のわが兵が……」 「国を出てから幾月ぞ、共に死ぬ気でこの馬と……」 「ああ、あの顔であの声で手柄たのむと妻や子が……」 その他の軍歌がひっきりなしに歌われ、またと見られない実に威勢のよい光景であった。

出征兵の歓送のほか、声なき遺骨の出迎いにも必ず婦人会が先頭を切って出られた。

三伏の夏も酷暑零下二十度の冬も、すべて往復徒歩である。

戦争が激しくなるに連れて、内地に残ったものは殆んど女子供と老人ばかりで、家業の農事や商いに従うものは主として婦人の役割りであった。

敗戦の色が次第に濃くなるようになって、本土決戦に備え、竹槍訓練のことも聞いたが、このあたりでは広場で行進分列をはじめたり、バケツリレーなど盛んに行われたものである。

バケツリレーとは、敵機の焼い弾による火消し演習である。

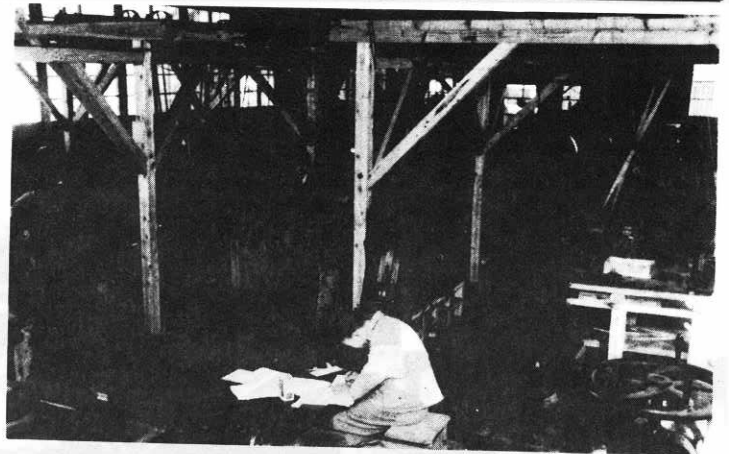
竹槍も、行進も、バケツリレーも、いずれもモンペ姿の婦人部隊であった。

原子爆弾に原始槍とは、今から思えば子供はいくさゴッコのまねであり、バケツリレーもりょうげんに牛の小便である。

然し国民の総力の結果と、志気の高揚には大いに役立ったものと思われる。

銃後婦人活動の一端である。

(本町)

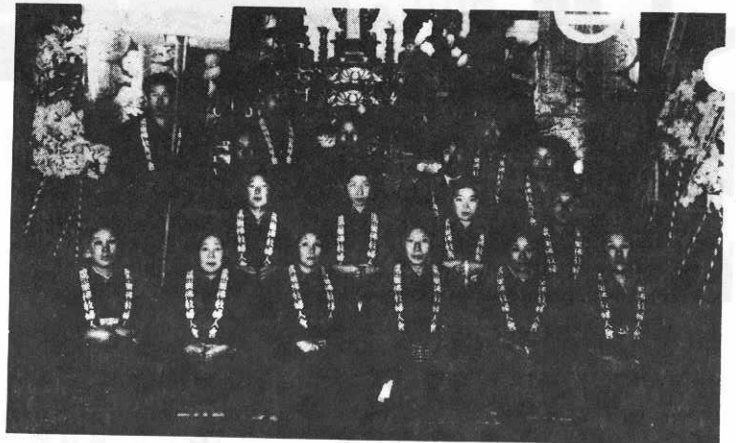


実科女学校が軍需工場に（昭和19年）

終戦の前後のころ

山野内ミツエ

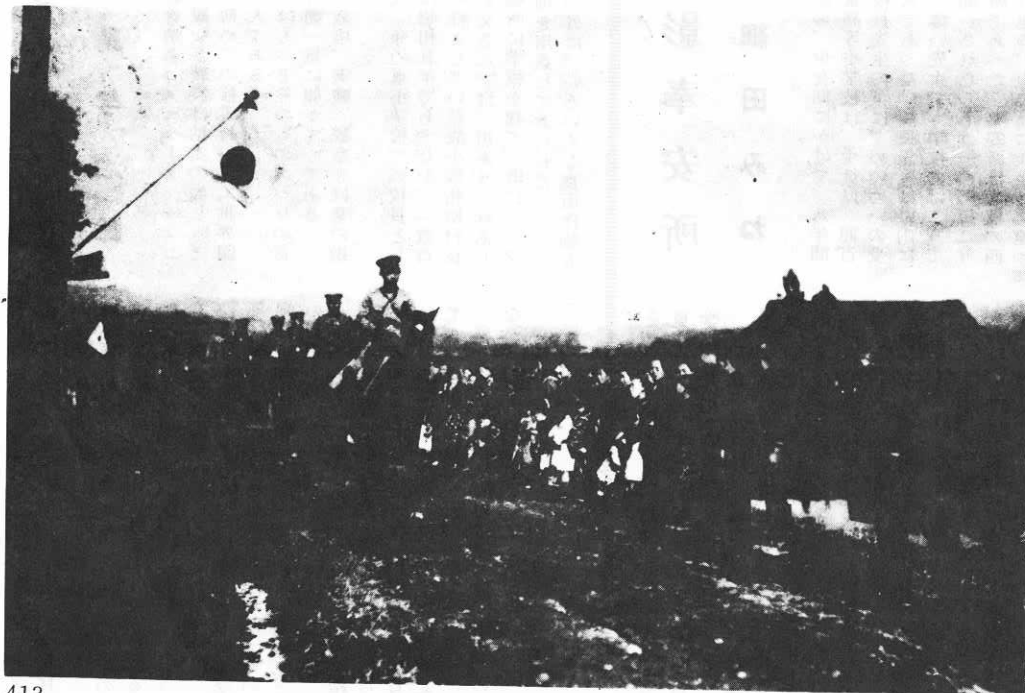
子どもを連れ、疎開のため町に足を踏み入れたのが、戦争もたけなわの昭和十九年九月でした。だが鷹巣も戦事体勢で空襲と食糧難のため、私達のように都会から疎開して来た人達がのんびりできるものではなかった。田舎とはいえ、残っているのは女、子供と、老人だけという時代でしたから、自然と労働の主体は婦人の役割となって私達婦人の肩のしかかって来ていた。そんな合い間をぬって、婦人は全員が愛国婦人会に入会し、消火



鷹巣仏教会の托鉢

訓練や、隊列行進訓練の毎日でした。こんななかで、子ども達は、松根油をとるために松の根を堀ったり、増産のための帛作りの毎日、勉強は二の次のようであった。このようなことが戦争に勝つことだと信じ、不平をいう人もなく何らかのかたちで、皆んなが進んで参加した。間もなく終戦をむかえ、そのまま三十年近くもこの町に住みついてしまったが、ふりかえてみるに、よしあしは別として、生きることにあれほど真剣であった時代が懐しく思い出される。

（花園町）



陸軍が大野台で演習

昭和十年十一月十三日行なわれた弘前騎兵連隊の演習に秩父宮殿下をお迎えしたときの風景

鷹巣小学校奉安殿付近



旧栄学校の労作教育の一コマ

旧栄小の教育のこと

九島与治郎

三百年前の教育学者コメニユース(チェコの人)は、「直観なき教授は枯木の如し」と喝破して、世界初めての絵入教科書(世界図絵)をつくった人である。

だが、日本にはもつとそのものズバリの言葉がある。「百聞一見に如かず」である。

私は、飼育、栽培、実験、観察を授業の指標にした。

私が栄小学校(今の東小学校)の校長として赴任したのは昭和五年であったが、「教育立村」を村政の柱としていた故小坂祐松村長(保雄さんのお父さん)は、川あり、林ありの環境満点の場所に学校を建て、既に二ヘクタールほどの畑を用意しておられた。畑には教材の外に、いろいろな食用作物も

ご真影奉安所

細田みね

私の幼女期から、少女期にかけて、八年間学んだ昔の尋常高等小学校は、生徒は、四百人たらずで、校長先生の下に、めいめいの受持の先生が八人であった。校長先生は県内に名の知られた、偉い先生で、学校のほこりであると何時も聞かされた。もう一つのほこりはご真影奉安所であった。奉安所は学校の西側にある大きい池の、中の島にゆかしく建っていた。中の島は土橋がかけられて、太い鎖で侵入者を防ぐ様になっており、島には、梅、桃、桜、松、もみじなどとりどりの木が植えられてあった。木々は四季の移りかわりには、それぞれの色に映えて神殿造りの奉安所は、

栽培させた、又、飼育の方は、オタマジャクシのようなものは勿論のこと、蛇まで「飼育」したし、豚の解剖で、臓器の勉強もさせた。もうひとつ、飼育のことでつけ加えたいのは、動物飼育は、動物に対する愛情を育てるし、責任感を養ううってつけの教材だということである。

低学年は兎、アヒル、ニワトリなど、中学年は山羊、高学年は豚を飼育させたが、その飼育日記を集録して、「豚は真珠を産む」という報告書を作った。

キリストは「豚に真珠を興えるな、豚は踏みにじるから」と云って、ものの価値を知らないものを風刺しているが、逆に、豚の飼育は、子供達に、えがたい「心の真珠」を興えてくれるからである。

私は今でも、自分の教育方針は、違っていないなかつたと思っている。

(東鷹巣)

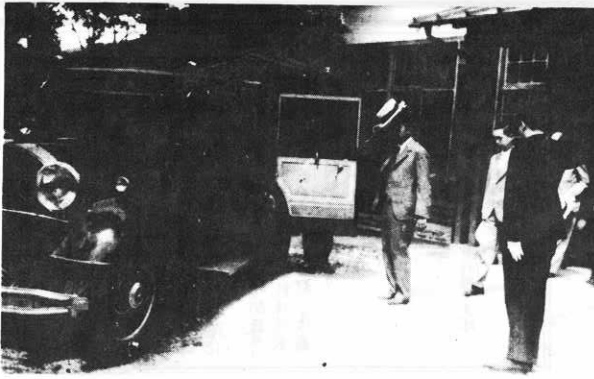
その木立に見えかくれた美しいただずまいを見せていた。どこにも見られぬこの造り方は学校の自慢であった。

三大節の祝日には、体操場の階上にある講堂に、両降下のお写真が移されて、君が代を歌ったものだった。男も女も一張羅に袴をつけた生徒たちは、校長先生の重々しく開く扉の中のお写真に最敬礼をし、頭を下げて、むづかしい教育勅語を開いた。

明治天皇はいかめしく立派で、皇后は比類なく端麗で美しかった。

町から山中の一軒家まで掲げられる日の丸の旗。校内に交差された大国旗。式場の水を打った様な静けさ。君が代のうた。勅語をよんで訓話をする校長先生。そして式歌の合唱。この事々は、明治から大正、昭和と続いたもので、同年代の人たちは、みんなこの思い出をもっている。

(大町)



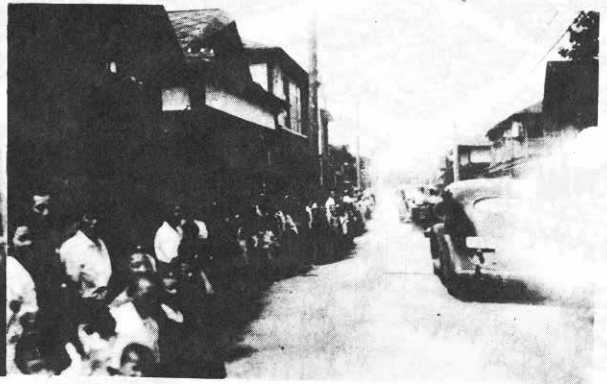
天皇陛下が水害視察に来鷹



道路を洗う濁流 (舟見町)



陣場岱で蓮池知事が説明



陛下を迎える町民



陛下ご休息セットと製作者



南鷹巣の旧兵舎をご案内

二十二年水害のころ

村上 薫

神さまから人間へ一元首から象徴に昭和二十一年一月、天皇は有名な人間宣言をされた。

「朕ト爾業国民トノ間ノ組帯ハ終始相互ノ信頼ト敬察トニ結バレ単ナル神話ト伝説トニヨリテ生ゼルモノニ非ラズ」と申された。その翌年の二十二年七月、東北地方は大洪水に見舞われた。北秋でも鷹巣地方は米代川流域の水害はもつともひどく、鷹巣タモテ一帯は堤防欠壊のため泥海と化してしまつた。敗戦直後の食糧危機時代とあつて、人間宣言をされた天皇は水害状況視察のため、奥羽本線回りで、八月二十二日午前大館駅に下車、駅頭で全町民に激励のお言葉述べたあと、お召列車で鷹巣に向つた。鷹巣駅前通りは天皇をお迎えする町民が勢揃いしておごそかにお迎えした。お召列車からお降りになった天皇は、御用車で鷹巣営林署の土場で、秋田杉の丸太を巻立する風景「ヨイト・マーゲ」作業をご覧になり、それから陣場岱に向つた。途中横町の明治天皇行在所跡には目礼して通過なられた。陣場岱では、いまのライオンズの森から米代川流域の水害状況を知事が説明した。ここには記念碑が建てられている。

これは余談のようだが、当時の日本は占領下にあつたので、天皇のご視察を米軍がライフル銃を持って監視する風景が見られた。それから陣場岱下の引揚者住宅を成田喜八町長の案内で訪問され、各家庭の生活状況をご覧になり、ご苦労さまでしたと、戦争に負けて相済まぬという意味の慰問のお言葉だった。次は鷹巣農林学校では河田与八校長の案内で視察なされ、お召列車でお帰りなされた。これが鷹巣町ご訪問第一回目でした。

秋田県北秋田郡鷹巣町真景



東京図社製図

鷹巣町略記
 鷹巣町は北秋田郡の中央に位置し且つ奥羽
 鉄道より南部へ阿仁地方に通ずる
 幹路に當り交通利便商業盛賑なり
 又行政上至便ノ地トシテ明治十二年郡役
 所ヲ此地ニ置カレ以テ今日ニ至ル最近
 又本縣於テ縣立農林学校設置ヲ奉
 ルヤ地ヲ本町ニ選擇シ設置セルニ至
 リ
 此地古來毎月七日日月並市場開設販引
 最モ繁盛ヲ極ム亦生繭製乾機場敷
 所ノ設備アリ近年附近町村ノ産繭
 共同販賣ヲ開始シ取引盛ナリ
 産物ノ重ナルモ米、繭、下駄
 附近名地
 野社七座神社へ三里
 阿仁鉦山へ八里
 七日市無煙炭山へ十六里
 炭鑛鉄道、鷹巣駅ニ奥羽線ト連絡
 小坂鉦山へ二十五里
 奥羽鉄道及小坂鉄道ニ至ル

<p>誌雜 文房具 相馬書店</p>	<p>和洋小物酒類雜貨 相馬書店</p>	<p>岩川旅館 前所役郡 中田商店</p>	<p>活版屋 岩川雄三郎 ホシノスリ</p>	<p>和洋小物酒類雜貨 相馬書店</p>	<p>岩川旅館 前所役郡 中田商店</p>	<p>和洋小物酒類雜貨 相馬書店</p>	<p>營業案内</p>
<p>料理 花月亭</p>	<p>和洋小物酒類雜貨 相馬書店</p>	<p>和洋小物酒類雜貨 相馬書店</p>	<p>和洋小物酒類雜貨 相馬書店</p>	<p>和洋小物酒類雜貨 相馬書店</p>	<p>和洋小物酒類雜貨 相馬書店</p>	<p>和洋小物酒類雜貨 相馬書店</p>	<p>營業案内</p>

鷹巣町略記
 鷹巣町は北秋田郡の中央に位置し且つ奥羽鉄道より南部へ阿仁地方に通ずる路に當り交通利便商業盛賑なり、又行政上至便ノ地トシテ明治十一年郡役所ヲ此ノ地ニ置カシ以テ今日ニ至ル。最近又本縣ニ於テ縣立農林学校設置ノ案アルヤ地ヲ本町ニ選擇シ設置セルアルニ至レリ
 此地古來毎月七日日月並市場開設販引最モ繁盛ヲ極ム亦生繭製乾機場敷ケ所ノ設備アリ、近年附近町村ノ産繭共同販賣ヲ開始シ取引盛ナリ。産物ノ重ナルモ米、繭、下駄
 附近名地
 野社七座神社へ三里
 阿仁鉦山へ八里
 七日市無煙炭山へ十六里
 炭鑛鉄道、鷹巣駅ニ奥羽線ト連絡
 小坂鉦山へ二十五里
 奥羽鉄道及小坂鉄道ニ至ル

鷹巣というのは地名である。大昔、真白な鷹が巣をつくっていたのでそんな地名が残ったというが、そんな鷹は本当にいたものかどうか、誰も見たものはいない。鷹巣ではなく雀の巣のようにべちゃくちやと賑やかで、伝統らしい重さのない、明るい町だ。この町に鉄道が敷かれたとき、地主が

渡辺 喜恵子

土地を分けるのを決めたので駅はとんでもない方向についてしまい、その結果、町は駅を扇の要めのように一本町の形を変えた。損をしたのは地主達だけであった。駅前広場をなさんで左右に旅館(旅籠)が二軒、居酒屋が二軒、菓子屋もあった。かまわず突き進むと忽ち松林の中へ入り、道がなくなってしまう。だが林の右の方に突如として花街があらわれる。そこを松葉町と呼ん

でいた。駅の方の子供達が学校に通うのに、近道するかどうかでもこの花街を抜ければならない。自然、子供達の方が母親よりも松葉町にくわしかった。松葉館の松子はいい女だとか、梅香亭の梅子は白粉を落とすと色が真黒だとか、花月の三人組だとか、松鶴のデブ芸者は秋田音頭がうまいとか、朝から下らないことと云って喜ん

でいる。学校で先生が、松葉町は通らないようにと注意するのだが、子供の好奇心はそんな注意位で利き目のある筈がない。鷹ノ巣は、町の形をとる前に、勝手に出来上ってしまった感じだった。(後略)

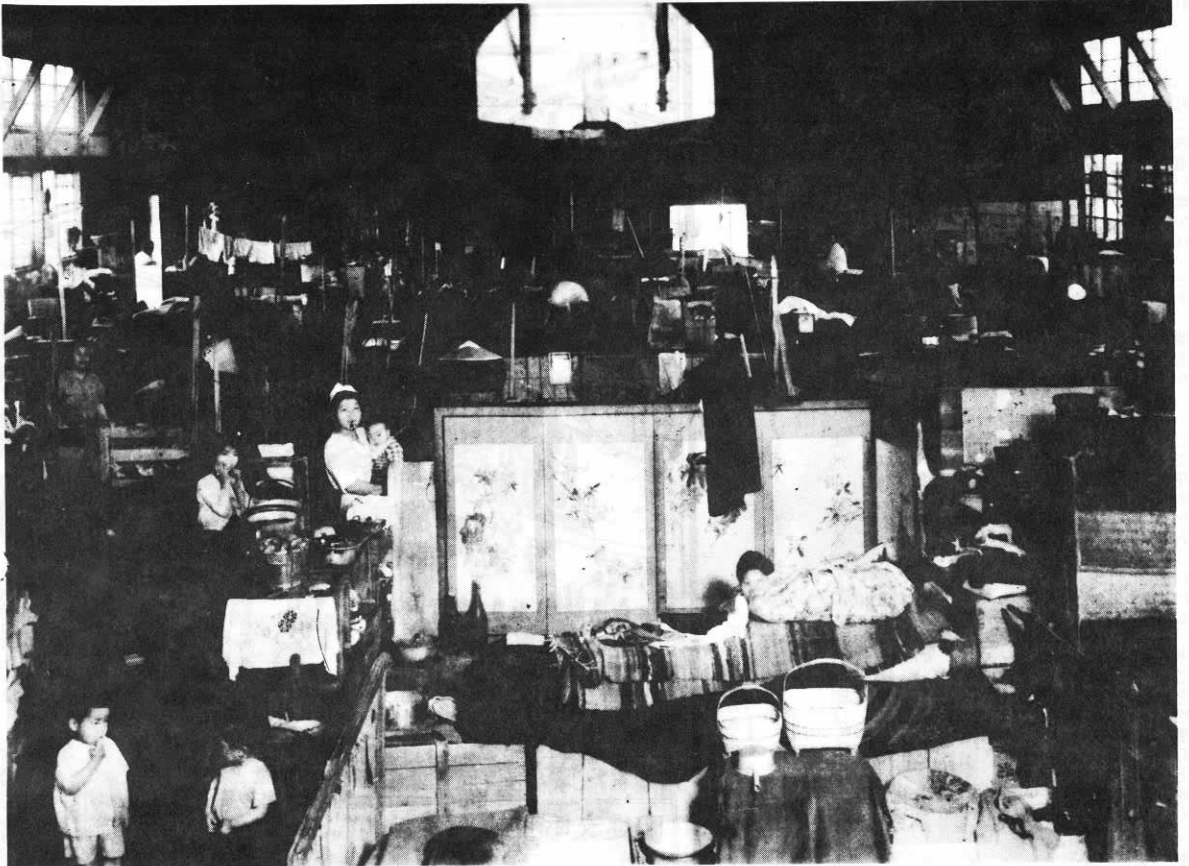


<p>負助 製材 成田 業成 田徳之助</p>	<p>北秋田 郡役所 鷹巣町 役場 河田 與惣左衛門 成田 和兵衛</p>	<p>所州調方處業宮品 局薬堂年千</p>	<p>業 三立社取引店</p>	<p>送 佐藤運送店</p>	<p>支店前 支店</p>
<p>興業 著古物太服 日用雑貨</p>	<p>可 店商村西</p>	<p>未廣家 理科印</p>	<p>長谷川 丸湯 成忠店</p>	<p>支店前 支店</p>	<p>支店前 支店</p>



右隅に説明としてつけられているものです。また下の左隅の交通図によれば、阿仁合線はまだなく、五能線も能代までとなっておりま

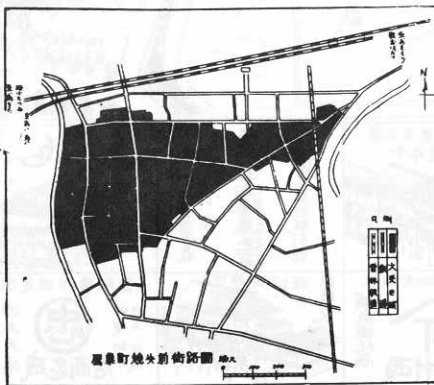
.....
 大火前の大町一丁目
 付近の風景



△鷹小体育館に避難

▷一面焼野原に変わる

▽焼失地図



鷹巣町大火

昭和二十五年六月一日は町史はじまって以来最大の災害を記録した日である。午後九時四十分材木町田村清蔵所有の物置小屋付近より出火したので常備消防は自動車ポンプ二台を直ちに出勤消火に当たったが、連日の晴天で乾燥しきっていた上に風速十三〜二十級の烈風(北東風)にあおられ、猛火は見る見る中に町の中心部に侵入した。各地の消防団の応援を得たが、重要な点に適当な水利がなかったため必死の努力も効かず遂に町の主要部を焼きつくして翌二日午前四時ようやく鎮火した。▽損害

焼失世帯数 七百五世帯
(全世帯千五百四十五)
同戸数 住家五百五十戸、
非住家百四十九棟)
罹災人員 三千三百八十八人
焼失面積 九万五千坪
死傷者数 死者無、重傷一人、軽傷二百四十一人
主な焼失建物 地方事務所郵便局、国警派出所、自治体警察署、消防団常備隊、青森銀行支店、町村会事務所、農協連合会事務所、医院四、農協倉庫二、映画館二、工場四
損害見込額 約十二億円、
その外成田翁記念図書館蔵書約九千冊、政府米一万三



大火から二十余年

嶺脇新

もう二十二年も前のことなので、忘れてしまったことが多いが、手元にある資料と私の記憶をたどってみよう。

昭和二十五年六月一日鷹巣町大火状況調によると、六月一日午後九時四十分、北塚倍九番地の一田村清蔵所有物置小屋附近から出火、六月二日午前四時鎮火、罹災戸数五百五十戸、七百四世帯、焼失面積九万五千坪となっている。当日の天候は東風十三米、二十米、晴天月明とある。

この頃はまだテレビというものもなく、午後九時四十分という時間は、もう町の人の多くが床についていた時間である。

▷猛火に追われて避難したが……
△鷹巣農協の倉庫も焼け落ちて、保管中の米は、数日くすぶっていた

東風の中で無気味に鳴り渡るサイレン、月は気味の悪いほど輝いていた。私は、とっさに前年の二十戸を焼いた能代の大火が頭をかすめたが、まさかあんな業火になるとは思わなかった。

近くに叔父の家があるので、とくかく現場へ駆け、屋根に上って必死で水をまき散らしたが、火魔はそんな人間どもをあざ笑うように勢いを増し広がるばかりだった。

遠く毛馬内や花輪からも応援の消防車が駆けつけ、消防車十九台が集ったものの、あまりの火勢に逃げ惑うばかりであった。

火が風を呼び、風が火を呼んで数ヶ所から一時に火の手が上がり、風速は台風なみ、一キ口はなれた坊沢田んぼまで拳大の消炭が飛んできていたのはびびりした。

六月一日といえば梅雨近い時期だが、あの

年はカラ梅雨だったろうか。

貯水池の水も不十分で「水利不十分なりしは遺憾のことにして大いに将来を戒むるものあり」と調書にも記されている。

それにしても深関方面から見るときは凄絶というか壯観というか、世紀の見ものであったらしい。手伝いを装ってずい分荒稼ぎをした近郷民もあつたらしいが、この大火の損害は十億とも十二億ともいわれたが、この年の米価は一俵二千円足らずであったから、いままらざつと五十億にもなるうか。

当時の資料では住宅建築能力の項で、資金半額必要とするもの百二十一戸、資金なく再建見込みなきもの二百七十一戸とあり、鷹巣小の体操場は罹災者で満ち溢れた。

二十年後の今日を見るとき今昔の感、無量ものを憶える。
(東旭町)

千依

▽罹災者状況

- 1 生活状況 罹災した生活扶助者三十六世帯、百三十二人、今後扶助を要する者百三十八世帯、六百十一人
- 2 罹災児童 中学校六百十三人の内二百八十九人。小学校千三百三十七人の中七百八十三人計千九百五十人の中千七十三人(五十三%)
- 3 住宅状況 全罹災者七百五世帯毎に個別調査をした結果自力建設可能の者三十五世帯、助成すれば建設可能の者百七十二世帯、全く再建能力のない者四百九十八世帯、計七〇七世帯。

▽義援金

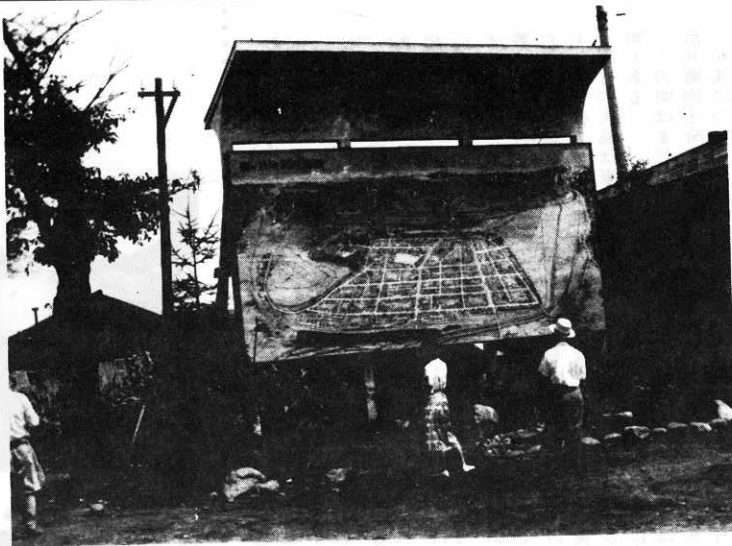
収入 四百五十二万三千八百四十円七十四銭
配分

- 罹災者分配 二百六十四万一千九百五十円
- 消防設備 七十二万九千六百七十二円
- 児童遊園施設 三十万円
- 失業対策施設 八十五万二千三百八十八円七十四銭
- 物資 衣料、食糧、日用雑貨多数。

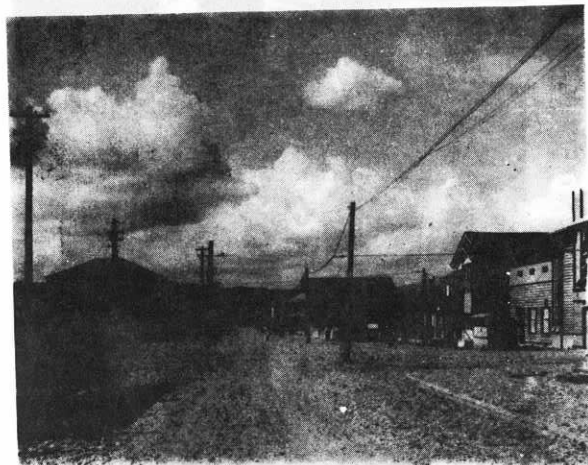
大火後町では焼失区域の都市計画を申請していたが、昭和二十五年六月二十三日建設省告示第六百五号をもって都市計画区域に指定された。そこで、第一次事業として焼失区域九万坪に対し、八月一日より火災復興土地画整理事業に着手した。



陸橋工事

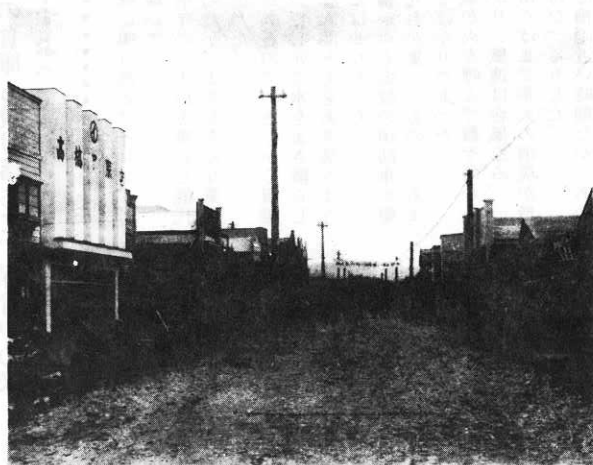


駅前案内板 大火後の復興が一応終わり案内板が建てられた。スカートの長さ時代に感じられます。(昭和30年)



復興中の風景

左、大町一丁目交差点付近。右、大町三丁目から四丁目を望む。



いまは道路や建物のほか消防施設、上水道など、市街地としてかなりの充実ぶりを見せています。ただ昔に比べ空地がなくなり、子どもの遊び場が少ないこと、近郊に市街地が自然発生的にのびているのが気がかかりです。緑を大切に、公害と災害に強い、住みよい町づくりのため、いっそう行政の英断を期待して止みません。

(材木町)

だが町民は各地の善意に励まされ、おおしく復興に立ちあがりました。なかでも特筆されるのが都市計画事業です。区画整理委員が選ばれ、原案が二週間後に出来ました。自動車の少ないその当時、十八号から十二号の広い道路計画には驚いたものです。いろんな論議が沸騰したが、少異を捨て大同につきました。地方事務所移転阻止の運動では、左派も右派も一致協力しました。

鷹巣駅前ネック解消工事もだいぶ格好がついてきました。たまたま都会から来た人を案内すると、想像以上りっぱな町並みに驚く。まんざらお世辞でもなさそうです。大火前の鷹巣町を知っている人は、なおさら隔世の感を深くすることでしょう。

大火は昭和二十五年六月一日の夜でした。

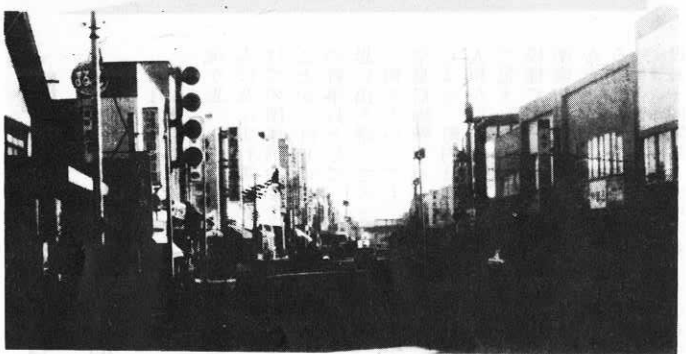
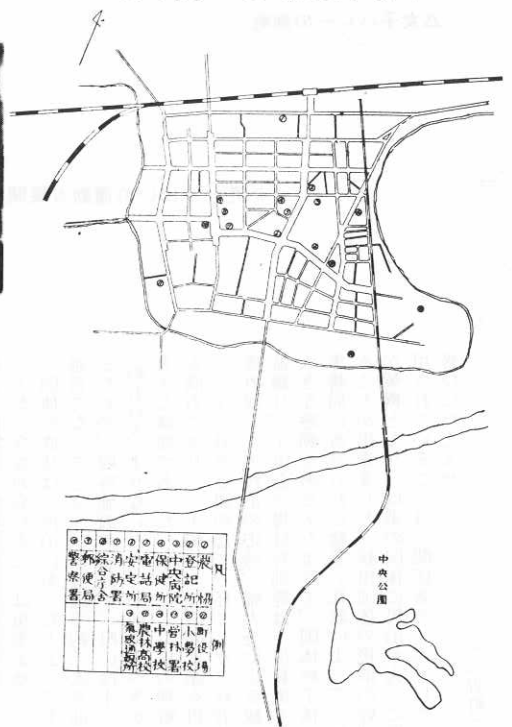
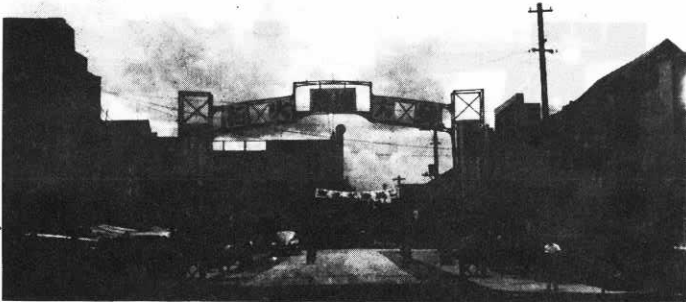
笹森 民治

鷹巣大火と都市計画 420



大火復興の状況を視察する町の議会議員(住吉町で)

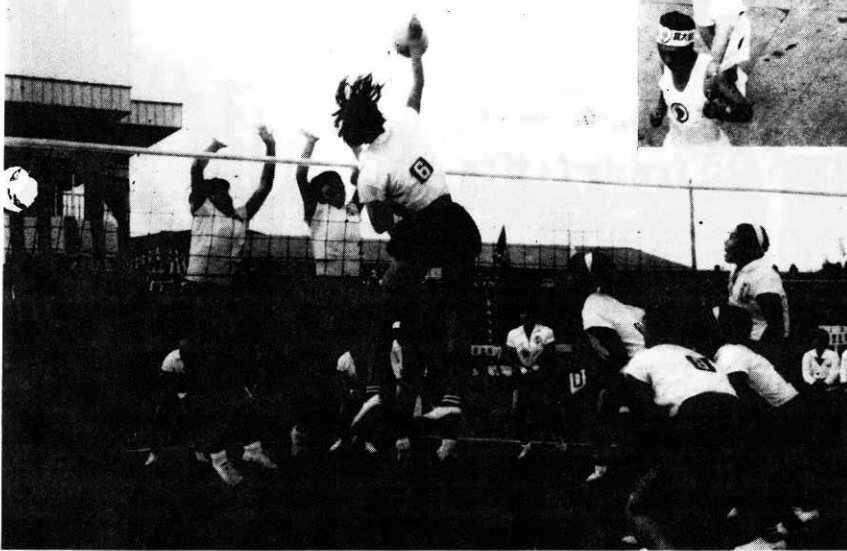
大火後の都市計画図



△都市計画の最後になった駅前通り
上は昭和30年頃、下は昭和47年。

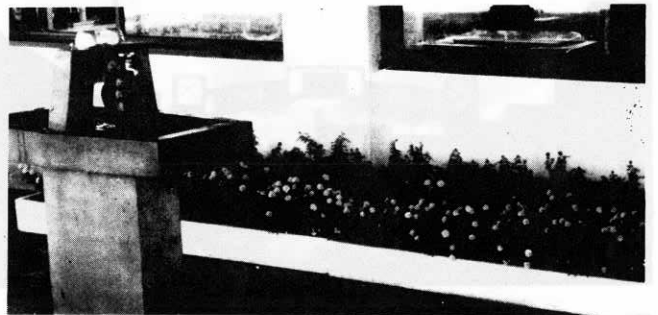


△旗リレー(右)と入場式(左)



△女子バレーの熱戦

▷花いっぱい運動も展開▷



国体をおもう

河田 治郎

十月の秋晴れの空を眺めるとき、今から一年前の秋田国体(バレーボール会場)の状況が思いだされ、三ヶ年に亘る準備と、三百人に及ぶ実行委員の活動、そうして、町民挙げての国体協力によって、有終の美を飾ることが、昨日の様です。当時私は国体事務局の幹事長として、その運営に参画したので、思い出を話してみます。

何んといっても、国体の盛り上がりは、天皇皇后両陛下をおそろいでお迎えしたことでしよう。町内は勿論、阿仁部などから歓迎の人垣が沿道をうめ、競技会場も数千人の観衆で包まれたときでしょう。当日は朝から小雨模様で、一時は両陛下をお迎えするための諸準備が、一瞬にして水泡に期するのではないかと、心配されましたが、両陛下を迎えるころには天候に恵まれ、競技もまた順調に運営され、御満悦のうちに、お退場されたときは、役員一同緊張と成功の喜びをかみしめあったことが、今なお忘れられることと云っても、

国体の成功は、民泊にあったと云っても、過言でないでしょう。役員選手約千人を迎えるための、収容施設の旅館が、町には十二軒(約五百人)より少ないため、如何にすべきかが大きな課題であった。しかし、町民の理解ある協力により、二十四軒の民泊の承諾を得たときは、只々感謝の念で一杯でした。経費を度外視しての民泊の応待、婦人会による観迎盆踊り、子供会の提灯行列等は、役員選手に大きな感動をあたえたようであり、国体終了後、事務局に寄せられた数多い礼状によって、知ることが出来ました。秋田国体の民泊の好評が契機となり、以来の国体に民泊が大いに採用されていることは、関係者の一人として、喜びにたえません。

(三吉町)

国体



△天皇、皇后両陛下が
鷹巣会場にご来臨

精鋭揃いの男子バレー▷



△民泊で友情のきずなが結んだ

さよなら、いつまでも元気で…▷



民泊と友情

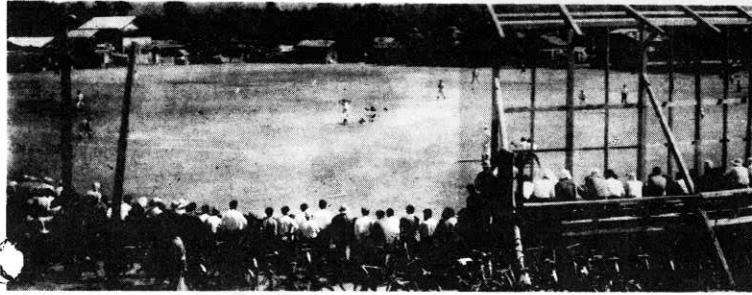
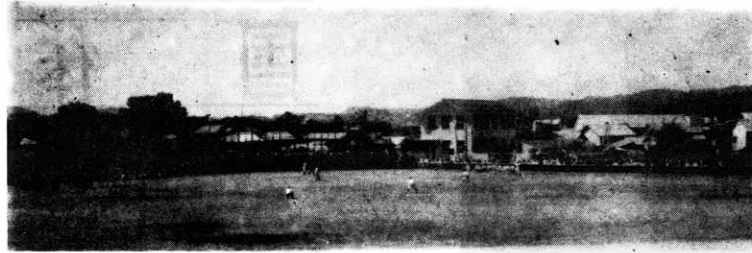
豊村 政吉

秋田国体がひらかれてからもう十二年になりました。あの日の思い出は昨日のようです。鷹巣町はバレーボール会場で全国各都道府県の選手が出場し、町ぐるみの応援、人情あふれる接待など文字通り「バレーの町鷹巣」。「人情の町鷹巣」と各チームから感謝のことばが寄せられて今も当時の選手たちと友情が深められています。私の家には沖縄教員団の選手十二人が一週間民泊しました。あの当時沖縄は米国の施政権下におかれ本土との往来が自由に出来ず選手たちはバスポート(旅券)を肌身離さず持っていました。ところで南国の人たちだけに秋田の秋はかなり寒かったと見え滞在中毎日マキストーブの側から離れずまた、ストーブははじめて見る人が多く何枚も記念写真をとっていました。また多くの町の人たちがわが家を訪ね沖縄選手団を激励してくれ中でも鷹巣民謡研究会の人たちが秋田民謡と踊りでサーブಿಸして選手たちも一諸に鷹巣音頭を踊るなど夜を明かして別れを惜しみました。このように沖縄と秋田の友情が深められ国体が終って沖縄に帰った選手団が中心になり太平洋戦争の末期沖縄で戦没した秋田県出身を祀る「千秋の塔」を昭和三十七年の一月沖縄の激戦地であった摩文仁丘に建立し当時の選手たちが毎年慰霊祭をおこなっています。沖縄が暗れて本土に復帰し県内の遺族の人たち十八人が今年六月沖縄の「千秋の塔」で慰霊祭をおこないました。秋田国体に出場した選手やその教え子たちなど五十人余りが出席してくれました。あれから十一年の歳月が流れても友情は固くむすばれ沖縄と秋田の友情は国体を取りもつキズナでいつまでもつづくことでしょう。

旧グラウンド

橋本みや子

「ちょうどこのあたりがキャッチャーのいる場所だったな」
 ここに家を建ててから七年たった今でも、ときどき我が家の話題になることばです。十数年前までの旧グラウンドを思い浮かべては、子どもたちに話して聞かせるのです。町の真中といっても当時はすぐそばに雑木が生えていたが、広々としたグラウンドで、運動会は勿論、



中学、高校、町内野球など、年中使われていたのです。今の電報電話局、秋北バス鷹巣営業所あたりが、観覧席だったでしょうか。向い側の家のオバサンがよくいいます。「二十三年前に引越してきたときは、オラの一家一軒だった。」と。そばには鷹小の体操場があり、休み時間毎に子どもたちが思いっ切り走り回ってやったこと、児童公園の一角には、「御真影」があつたことなど、おもいででは消えません。

(西仲通)

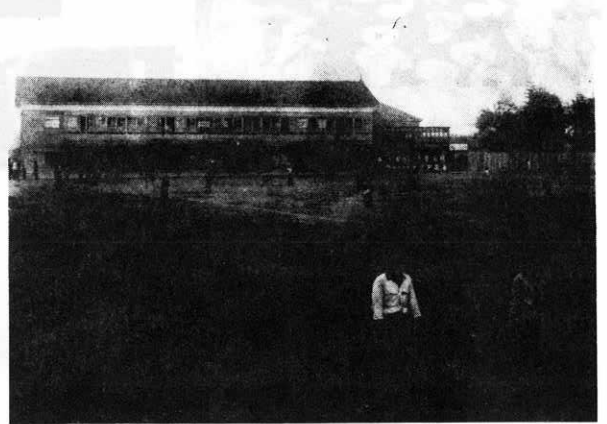
思い出の町営グラウンド

町の中央にあった町営グラウンド。かずかずの思い出を残している。下の写真のずらり並んだ自転車など当時は偲ばれる。

十年の年月

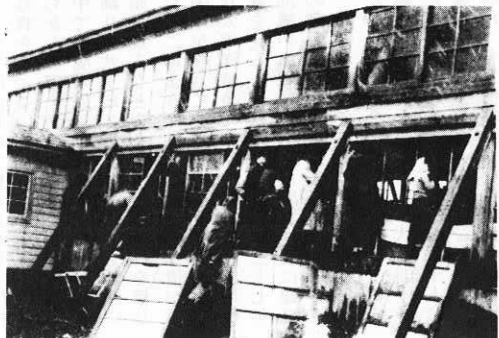
五十嵐謙

鷹巣の住民になったのは昭和二十四年四月で、当時の小学校住宅にお世話になっていた住宅の位置は今の電報電話局前の公衆電話ボックスの辺であったように思われる。その頃あつた野球場のバックネットのすぐ後であつた。米代町通りは野球場あることによつて、むしろ現在よりも活気があつたのではなからうかと思われる。各種野球大会は勿論、体育行事の殆どが行われたものだ。プロ野球巨人の第二軍がきたのもその頃で入団早々のジャイアント馬場のノックリした姿もみえていた。大相撲の巡回興行も行われ、早朝から櫓太鼓



野球の練習風景

鷹小体育館は催し物のセンター。こんな風景もたびたびであつた。

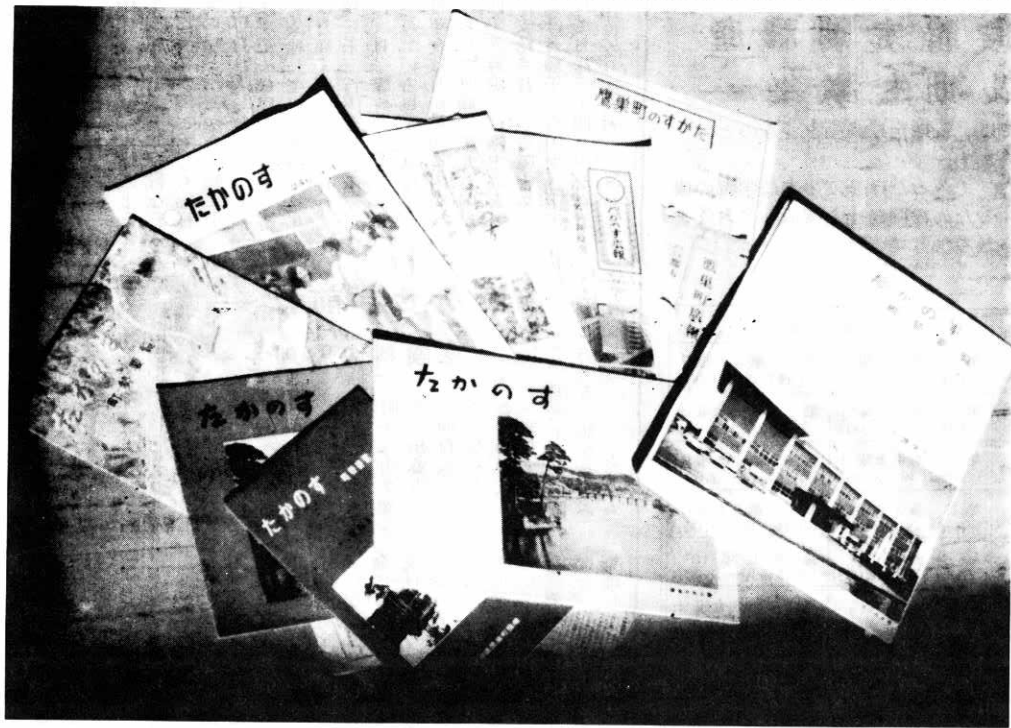


の音でおこされたりしたのも昨日のこのように思われる。拡声機の音響、観衆の歓声、爆竹の音、時にはボールが屋根に降ってきたりずいぶんにぎやかな住宅であつた。それに公民館もない頃で、民謡大会やら歌謡曲のショーなどの会場として当時の小学校の体育館が使用されていたので町内はいうまでもなく、阿仁方面からの人たちが賑わつたものであつた。

十年の年月は町の様相を大巾に変えたが、最も変わったところといえは米代町二丁目ではなからうか。

一口に十年といえは短かいようだが、十年前の米代町二丁目の姿を思い浮かべて現在をみればやはり十年は長い年月のように思われる。

(東旭町)



広報のあゆみ

広報二百五十号の編集を終えて

わが町の歩みを綴った広報紙が、この十一月一日号で二百五十号となった。新町が発足した昭和三十年五月に創刊号を発行して以来十七年、先輩のあとを引き継ぎ昨年の七月から広報を担当し、どうにか月二回の定期発行だけはやってきた。この間、役場からの通知の窓口が広報一本となり、役場と町民を結ぶパイプラインとしてその任務はますます重きを加え「町民に読まれる」、「発行日の待たれる」といった広報紙を作ろうと毎号考えて編集はしているが、なかなか頭の中に描いたようにならない。

毎回、原稿、写真、そしてレイアウト（紙面の割付け）、印刷前の校正を十分したつもりが、印刷所から帰ってくる完成紙を手にし、そのたびに不向きをなげく。

広報を担当し、三十回あまりの発行ですが毎回このような気持ちで、できた紙面をみつめます。そのたびになんとかしなくてはと、心のあせる気持を押え、どうすることもできない情けなさにかられる。たまには、原稿が締め切りギリギリになることも多くその頃になると、いつときも広報のことが惱りから離れなく、夜を通して原稿を整理することもあるが、編集を終えたときの気持はなんともいえない。これは広報マンだけがあじわえる

特権かもしれない。しかし、翌日からつぎの発行が待ちかまえている。広報マンはこの繰り返しであるかもしれない。

広報マンの特権なり喜びもたくさんある。取材のための町議会傍聴、各種会議や催し、また庁外に出る機会も多く、行政ないしは町全体の動きが客観的にではあるが他の係より多く知ることができることである。また、広報紙に対するアドバイスである、こんなページを設けたら、こんな企画をしたらなどきかされるときや、広報紙を毎号綴っている家庭の話しをきくときなどはほんとうに、喜びを感じる。そのたびに、来年度には是非毎戸に広報綴りを配付しよう、子ども向けページも作ろうなど夢も大きく広がり、ファイトもわいてくる。

わたくしたちの周囲には、新聞、週刊誌、テレビ、ラジオ、商業広告など情報でうずまわっている。そんな中で、月二回みんなさんのお宅に配付される広報紙が、茶の間の話題になるよう努めていきたいと考えている。

よりよい広報作りのため、町民のみなさまのご意見、ご要望、ご指導をお願いします。

お待ちしております。

（総務課秘書係 松尾健正）

十月分から大幅に増額

福祉年金受給者に

うれしいお知らせ

国民年金では、毎年のように年金額の引き上げが行なわれていますが、ことしも福祉年金の額が十月から大幅に引き上げられました。

まず七十歳以上のおとし寄りに支給している老令福祉年金は月額千四百円から三千三百円に、母子家庭の方などに支給されている母子(準母子)福祉年金は月額千四百円引き上げられて月額二千九百円から四千三百円に、障害のある方に支給されている障害福祉年金は月額千六百円引き上げられて月額三千四百円から五千円になりました。

なお、老令年金を除く拠出

出かせぎ前に

保険料の整理を

ところで、国民年金の保険料は、滞納すると額がかさみ、なかなか納めにくくなるもの

取り入れも終り、ことしも出かせぎの季節を迎えます。この冬、町から出かせぎに出る人が千四百人くらいになるものと予想されています。国民年金の保険料を納納する額がかさみ、なかなか納めにくくなるもの

と、出かせぎ前にもう一度確認し、保険料だけはきちんと整理しておきましょう。

また、出かせぎ先の事業所で、厚生年金に加入したときは、国民年金を脱退することになりますから、厚生年金など拠出制の老令年金については、来年度に大幅な引き上げが予定されています。

公民館定期講座 ＝後期生募集＝

公民館では、後期定期講座をつぎのとおり開設しています。

今回から、できるだけ多くの方に学習の機会を拡大するため夜間講座も開設しておりますので、多数参加してください。

記

講座名	昼の部	夜の部
書道教室	第1、第3土曜日 (午後2.00~4.00)	第1、第3火曜日 (午後7.00~9.00)
調理教室	第1、第3土曜日 (午後1.30~4.00)	第1、第3木曜日 (午後7.00~9.00)
詩吟教室	第2、第4土曜日 (午後1.30~3.00)	第2、第4火曜日 (午後7.00~9.00)
生花教室	第1、第3金曜日 (午後4.30~6.00)	第1、第3水曜日 (午後7.00~9.00)
将棋教室	毎週土曜日 (午後1.00~5.00)	毎週土曜日 (午後5時~9.00)
地方史教室		第1、第3金曜日 (午後7.00~9.00)
ダンス教室		第3金曜日 (午後5.30~9.00)
文芸教室(つづり方)		第2、第4金曜日 (午後7.00~9.00)
着付教室(短期)	5回で終了します。	
		毎週水曜日 (午後7.00~9.00)

昭和四十八年度

職業訓練生募集

昭和四十八年度専修職業訓練校の訓練生募集、選考を次のとおり実施することになりました。

▽願書受付 十一月一日から十一月十四日まで
▽選考日 十一月二十二日

- ▽合格発表 十一月三十日
- ▽学力検査 数学、国語
- 専修職業訓練校と訓練科名は次のとおりです。
- ◎鷹巣 建設機械整備、電気工事、建築
- ◎鹿角 建築、木工
- ◎能代 機械、溶接、木工
- ◎秋田 溶接、洋裁、自動車整備、建築、木工
- ◎本荘 電子機器、塗装
- ◎大曲 ブロック建築、木工建築製図
- ◎横手 機械、板金、電気工事、電子機器
- ◎湯沢 建築、塗装、測量、

賢しい消費者になろう

10日、第七回消費者学習会

第七回鷹巣町消費者学習会が、梶、町、婦人会の主催で十一月十日(金)午前十時から午後三時三十分まで鷹巣町公民館で開かれます。

この消費者学習会は、午前中「物価の上昇と流通について」の話し合い。午後は、一時三十分から国民生活センター調査役青山三千子氏を講師に、消費生活をおびやかしている有害食品や欠陥商品など各種の粗悪品の障害に対して「消費者は何をしたらよいか」

を学びます。よりよい消費生活をするため一人でも多くの参加を望んでいます。なお、参加者については婦人会で取りまとめているますが、婦人会に加入されていない方は十一月八日(水)まで役場商工観光課に申し込んでください。(電話二局一一一番)午後からの学習会にだけ参加の場合は申し込みの必要はありません。

赤ちゃんの検診と健康相談

十一月八日(水)午後一時から三時まで、役場三階会議室で赤ちゃんの健康相談を行います。対象者は、四十六年十月生れ、四十七年一月生れ、四月生れ、七月生れとなっています。

心配ごと相談所

鷹巣地区の方は、第一、第三水曜日の二日、十六日午後一時から二時まで鷹巣保健所をご利用ください。なお、当日は必ず母子手帳をおもちください。

町長面会日

十一月の町長面会日は、七日と二十一日です。午前九時から十二時まで役場二階応接室で行ないますのでお気軽においでください。

盛りあがった「体育の日」

各地でスポーツを楽しむ

秋びよりに恵まれた十月十日「体育の日」この日町では、より多くの人にスポーツをたのしんでもらおうと、町内の体育施設を開放「生活の中に体力づくりを」とスポーツの一日をたのしみました。

町民駅伝大会

青年 綴子が優勝 職場 県職

▽午前八時三十分には、児童公園に老人クラブなど五十名が参加して歩こう大会。途中農林高校博物館の庭園でひと休み、新築なった農林高校々舎などを見学しながら役場前まで約五十分の歩こう会。役場前では、途中参加者もあり百五十名の方に参加賞が贈られました。

▽午前九時三十分からは、役場庁舎前に三百名余りが参加して体操納会。町では、自分の働き場で午前、午後十分程度の体操を奨励しております。また、同時刻に公民館では

小学校から高校までの豆剣士百余名による剣道スポーツ大会が開かれました。

▽午前十時からは浄蓮寺コートで町民庭球大会。午後からは初心者コートを開放にぎわいをみせていました。

▽午後一時からは、役場三階大会議室に婦人など八十余名が参加して民謡おどりの集い佐藤なか子先生の指導に汗を流していました。

「体育の日」のハイライト第八回町民駅伝大会は、午前十一時役場庁舎前スタートで行なわれ、青年の部六チーム（十区間四十一・六分）、職場の部六チーム（六区間二十三・五分）が参加、健脚を競いました。結果は、青年の部では後半に勝負をかけた綴子が坊沢を押え優勝、職場の部で

は、一区からトップに出た。職チームが二連勝しました。成績は次のとおりです

【青年の部】

- ①綴子（2時間28分52秒）
- ②坊沢（2・31・3）
- ③栄（2・33・47）
- ④七座
- ⑤沢口
- ⑥七日市

【職場の部】

- ①県職員（1時間26分26秒）
- ②中央病院（1・30・40）
- ③東北電気工事（1・31・46）
- ④村上土建
- ⑤平塚自動車
- ⑥廣葉消防署

役場執務時間の変更

役場では、例年実施しております冬期間の執務時間の短縮について、次のとおり実施することになりましたので、ご了承ください。

▽実施期間 十一月一日から四十八年二月二十八日まで
▽執務時間 午前八時三十分

里親に なりましょう

から午後四時三十分まで。ただし、土曜日は午後零時三十分までとなっております。

里親とは、両親がいなかったり遺棄されたりして家庭に恵まれない児童を自分の家庭内で養育する人のことです。家庭に恵れない児童、とくに

に年令の低い児童は、暖かい家庭の雰囲気の中で愛情につつまれて養育されることが必要です。それだけに里親の皆さんに期待するところも大きいわけです。里親に関する規定は次のようになっていきます。

▼里親になるためには

福祉事務所か児童相談所に申し込むと、児童相談所の調査や児童福祉審議会の意

見に基づいて知事が認定します。

▼養育のための経費は

飲食費、日常諸経費等が、委託された児童の年令等にに応じて支給されます。四十七年度予算では一人当たり一万二千円です。ほかに里親手当（児童相談所との連絡のため）が児童一人につき月額千円が支給されます。

秋季定期清掃

田中、新田中、南田中の秋季定期清掃を十一月八日に行ないます。今回はとくに、下水や排水の清掃に力を入れてください。

交通事故相談

十一月一日から十五日までの交通事故相談日は次のとおりです。お気軽にご利用ください。

相談所は、北秋田総合庁舎福祉事務所に置いています。
十一月……二、七、八、九、十、十三、十五の七日間。



青年の部優勝綴子チーム



職場の部優勝県職チーム



歩こう大会



町民体操会



民謡おどりの集い



お知らせ コーナー



この欄はあなたへの
通知です。
かならず目をとおして
ください。

満一歳児の 健康診断

昭和四十六年一月一日から
十二月三十一日までの出生者
の健康診断と優良児表彰の資
料とする健康相談を次により
行ないますので、該当するお
子さんは是非受けられるよう
おすめします。

時間は、いずれも午前十時
から午後三時まで、場所は役
場会議室で行ないます。
▽十一月九日〓七日市地区
▽十一月十日〓七座地区 坊

沢地区
▽十一月十三日〓栄地区 綴
子地区

▽十一月十四日〓米代 東住
吉 西住吉 北新町 太平

福住 末広 松葉 駅前

新松葉 伊勢 東仲 材木
舟見 あけぼの 森館の各
町内

▽十一月十五日〓南鷹巣 東
横 西横 仲町 大町 学

校通 旭町 西仲 三吉
桜木 元新 栄町 花園

東旭 西旭 新旭の各町内
なお、都合により指定日に
受診を受けることができない
方は、他地区の都合のよい日

においてください。

妊婦健康相談

妊婦の正常分娩と丈夫な赤
ちゃんの誕生をねがって妊婦
の健康相談を行なっています
十一月以降の日程は次のとお
りですのでご利用ください。
▽家族計画指導〓十一月一日、
二月五日
▽大切な栄養と日常生活〓十
二月一日 三月一日
▽安産のための補助動作〓一
月八日

48年年賀はがき

11月6日から発売
郵便局では、来年のお年玉
つき年賀はがきを十一月六日
から発売します。
鷹巣郵便局管内では、三十
三万九千枚の発売枚数で、十
円が二十四万四千枚、十一円
が九万五千枚となっています。
これは無集配局分を含んでお
りますので、町内の切手類売
りさばき所もご利用ください。
年賀はがきの引受けは十二
月十五日からですが、早目に
お書きになって、おそくとも
十二月二十二日まで差し出せ
るよう、準備しましょう。
なお、郵便番号もお忘れな
くお書きください。

善意

▽栄町故岩川碧涯氏(本名岩
川義郎)の句碑が遺族によつ
て中央公園展望台のそばに建
てられましたが、その句碑建立
除幕を記念して親族一同から
金五万円が町社会福祉協議会
に寄付がありました。
▽鷹巣高校生徒会(代表小畑
厚)では、このほど老人福祉
県北高校フオークソングフェ
ステバルを開催しましたが、
その収益金二万二千七百十八
円を町社会福祉協議会に寄付
しました。

香典返し

このほど次のかたから、香
典返しにと町社会福祉協議会
へ寄付金がありました。ご芳
志に深く感謝いたします。
▽東旭町〓二階堂善三さんか
ら、亡妻キヨさんの香典返し
一〇〇、〇〇〇円
▽東仲通〓成田四郎さんから
亡妻美子さんの香典返し、
一〇、〇〇〇円

連帯だより

10月1日〓10月15日
誕生おめでとうございます

二人の前途を祝福します

- 吉田 昭治 合川町
- 日下部 みつ子 古閑
- 工藤 勝男 東住吉町
- 伊藤 シツエ 東住吉町
- 土田 守 堂ヶ岱
- 藤島 昭 和
- 藤山 昭 和
- 亀山 武夫 南鷹巣
- 戸共 子 南鷹巣

家屋調査についてお願い

来年度は、3年ごとに自治大臣が告示する
固定資産評価基準によって評価替を行なう基
準年度に当たります。

このため町では、全家屋について調査する
ことになり下記日程によりお伺い致しますの
でよろしく申し上げます。お伺いの節不在の
場合は外部より調査させていただきますから
ご了承ください。

- ◎調査の対象となる家屋…昭和37年以前に建
築された家屋
- ◎昭和38年以降に建築された家屋については、
倍率方式によって評価額を算出致しますの
で、調査にはお伺い致しません。
- ◎昭和47年中に新築、増築、内部改造等の家
屋については、別にハガキにより調査予定
日を通知致しますからご協力くださるよう
お願い致します。

家屋調査日程表

日	程	地区名
11月6日	～11月10日	坊沢地区
11月10日	～11月27日	綴子地区
11月27日	～12月21日	鷹巣地区
11月28日	～12月1日	栄地区
12月4日	～12月12日	沢口地区
12月13日	～12月21日	七日市地区

訂正

十月一日付(二四八号)就
業相談員の記事中、沢口地区
中島多吉郎とあるのは中島多
郎吉のまちがいでですのでおわ
びして訂正します。

おくりやみ申しあげます

- 神成 城弘(39) 小森
- 佐藤 芳男(48) 糖沢
- 島山 ヤエ(57) 上野